

2021 年 5 月 12 日

2021 年 3 月期決算発表にあたり頂戴したご質問へのご回答

2021 年 4 月 28 日（水）の当社 2021 年 3 月期決算発表にあたり頂戴した主なご質問につきまして、下記のとおりご案内いたします。

Q1：増益となった背景として情報システム関連事業・空調システム関連事業の好調を挙げているが、新型コロナウイルスは当社の事業活動にどう影響したのか

新型コロナウイルスは、お客さまが投資活動を控える原因や、案件が延期・中止となる原因をつくったりもしておりますが、一方で当社は情報システム関連事業をもっていることもあり、テレワークやリモート商談などが実施しやすい環境にあり、営業活動の創意工夫が実ったというのが大きかったのではないかと考えております。また、徹底した感染対策により本社機能を停止させなかったことも好業績を支えた要因であったと考えております。

Q2：次期（2022 年 3 月期）は、情報システム関連事業・化学品関連事業が減収予想となっているが、その原因は

前期（2021 年 3 月期）は、情報システム関連事業につきましては、おもに小・中学校へのタブレット端末・パソコン納入などといった文教関連案件の売上計上がございました。また化学品関連事業につきましては「アビガン®錠」の原薬製造案件の売上計上がございました。現在のところ、次期はこれらの売上計上は考慮していないこと、またいわゆる「新収益認識基準」の適用などにより、減収となることを想定しております。

※「アビガン®」は富士フイルム富山化学株式会社の登録商標です。

Q3：次期は減益予想となっているが、その原因は

当社では近年、おもに人や設備への投資を加速させており、次期につきましても引き続き投資活動に取り組む方針としております。これらは今後、事業をいっそう広げていくための先行投資でございますことをご理解いただけますと幸いです。

Q4：完全子会社となるアクティブファーマは、今後どうなっていくことを期待するのか

ジェネリック医薬品原薬、新薬・長期収載品向け原薬を製造するアクティブファーマは、昨年 5 月に富山八尾工場の設備を増強し、高品質な医薬品原薬を安定的に供給できる体制を強化いたしました。製造にかかる運用レベルを高めることにより、既存の医薬品メーカーさまや先発医薬品メーカーさまより新たなお仕事がいただけるよう努めてまいる所存です。

Q5：政府が 2050 年に目指す「カーボンニュートラル」についてどう考えるか。また既存のエネルギー関連事業について何か影響はあるか

あくまで社長である三谷の私見として、「『技術的なイノベーション』によってカーボンニュートラルを達成したい」ということでしたら賛成したいと考えております。

当社は現在、燃料の供給を通じて、おもに石川県における地域産業や生活のインフラを一部担わせていただいているという認識がございます。石川県は必ずしも電気だけで暖がとれるエリアではないと考えておりますし、今すぐにエネルギー関連事業の在り方を見直すことは考えておりませんが、社会では、どのように環境負荷が低い形での燃料の適正な用途・適正な使用量というのをデザインしていくかというのが、新たなビジネスになっていくのかなと考えております。

以上